

民間医療機関の「2025年における対応方針」に係る説明資料について

南部医療圏 病院		ページ
①	医療法人メディカルケア 徳島ロイヤル病院	1
②	医療法人松風会 江藤病院	2
③	医療法人道志社 小松島病院	3
④	医療法人雙立会 碩心館病院	4
⑤	医療法人加藤会 小松島金磯病院	5
⑥	医療法人医正会 原田病院	6
⑦	医療法人至誠会 宮本病院	7
⑧	医療法人樫水会 玉眞病院	8
⑨	医療法人すみれ会 羽ノ浦整形外科内科病院	9
南部医療圏 有床診療所		
⑩	医療法人ふじのクリニック ふじの小児科クリニック	10
⑪	住吉レディースクリニック	11
⑫	医療法人敬和会 藤野医院	12
⑬	医療法人健泉会 赤岩医院	13
⑭	医療法人翠松会 岩城クリニック	14
⑮	医療法人新心会 馬原医院	15

病院の機能・役割と今後について

病院名	徳島ロイヤル病院			
所在地	小松島市中田町字新開48番地			
開設者	梶田 勝仁			
許可病床数(床) (うち非稼働病床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	46床 ()	0 ()	0 ()	46床 ()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	リハビリテーション科	循環器内科	消化器内科
病床機能(床) 現状 2025年	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
		46床	46床	
主な病院機能				
病床機能	・一般病棟(地域一般入院基本料3)算定病床 36床 (地域包括ケア医療管理料4)算定病床 10床			
リハビリテーション機能	・脳血管リハⅡ、運動器リハⅠ、呼吸器リハⅠ算定 リハビリスタッフ計13名(PT8名・OT4名・ST1名)			
健康診断	・企業健康診断実施病院 在宅			
在宅	・在宅療養支援病院			
介護部門(併設)	・介護医療院(52床)令和2年4月1日に転換 ・通所リハビリテーション			
自施設の現状	昭和62年4月開院時の98床より令和2年4月に52床を介護医療院に転換し、残りの46床の内36床を地域一般病棟に、10床を地域包括ケア病棟として運営しています。そうして46床の病床は地域の入院が必要な高齢者、徳島赤十字病院で急性期より回復した高齢者又周辺の高齢者施設で入院が必要となった患者様を収容し、入院治療により回復させ、在宅や施設に復帰させる事を主目的に運営しています。			
自施設の課題	①主に地域の高齢者の医療を支える役割を担うと共に、医療・福祉・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの実現に向け体制を強化して行きます。 ②小松島医師会や小松島市役所との連携を一層強化し、地域の病院・診療所と役割分担を行います。			
地域において今後担う役割	主に小松島地区での地域包括ケアシステム構築に向け地域医療連携の推進に取り組みまた介護・福祉施設等とも連携を図ります。 具体的には ①地域密着型医療の促進 ②高齢者等幅広いニーズの対応 ③地域の予防検診の強化 ④在宅支援機能の強化 ⑤高齢者施設への医療的バックアップ			
今後の展望	現在まで個人病院として運営し、院長・副院長共に既に満70歳を越え、次第に限界を向かえようとしています。この度法人化により近い将来若いドクターに継承してもらい今後も他の病院・診療所とも連携して地域密着型の医療を継続推進して行きたいと考えております。又今後なお一層の一般病棟から地域包括ケア病棟への転換を図る事により、回復期機能を増強して行きたいと考えております。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	江藤病院			
所在地	徳島県小松島市大林町字北浦21番地1			
開設者	理事長 武久 洋三			
許可病床数(床) (うち非稼働病床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	31床	61床		92床
	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	整形外科	耳鼻科	皮膚科
病床機能(床) 現状 2025年	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
			61床	31床
			61床	31床
主な病院機能				
がん	在宅、入院含めターミナルケア中心に受入れを行っている			
脳卒中	回復期、維持期を担う病院			
心血管疾患	回復期、維持期を担う病院			
糖尿病	専門医による診察			
精神疾患				
救急	救急告示病院			
小児				
周産期				
災害				
へき地				
在宅	在宅療養支援病院			
自施設の現状	二次救急の受入れ、急性期後のリハビリ加療、退院後の在宅診療・訪問看護・訪問リハビリを担っている。 地域の診療所から入院が必要な患者の受入れも行っている。			
自施設の課題	夜間の救急体制が十分に機能できていない。			
地域において今後担う役割	引き続き、救急の受入れや急性期後のリハビリ加療、退院後の在宅診療・訪問看護・訪問リハビリ等を行い、地域の病院としての医療を提供できる役割を担っていく。			
今後の展望	高度急性期病院との連携をさらに密にし、地域の方が安心・信頼していただける病院を目指す。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	小松島病院			
所在地	徳島県小松島市田浦町近里83-11			
開設者	医療法人 道志社 理事長 鵜尾隆啓			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
		92床		92床
(うち非稼働病床)	()	(0)	()	(0)
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	整形外科	リハビリテーション科	歯科
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状			92床	
2025年			92床	
主な病院機能				
脳卒中	回復期を担う病院			
救急	小松島医師会 休日・夜間輪番病院			
在宅	在宅療養支援病院			
自施設の現状	地域包括ケアシステムの中で回復期を担う施設として、年間新入院患者数約700名、平均在院日数43日、在宅復帰率90%と一定の役割を果たしてきている。			
自施設の課題	外来休診日が多くあり、地域のかかりつけ医としての十分な機能が発揮できていない。外来担当医の充実を図り、必要な医療が最短で受けれるよう連携を進める。			
地域において今後担う役割	地域住民の健康増進に向けて、市町村の包括支援センターと協力して実施している健康教室等の充実。地域住民に向けた健診や人間ドックの充実。			
今後の展望	令和元年8月に回復期リハビリテーション病棟の一部を地域包括ケア病床(7床)に転換している。今後も地域包括ケア病床の充実を計り、地域住民及び関連施設からの入院受入体制を整備し、地域の医療ニーズへの対応を図る。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	碩心館病院			
所在地	徳島県小松島市江田町字大江田44-1			
開設者	医療法人 雙立会 碩心館病院			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	60床			60床
(うち非稼働病床)	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	循環器内科	糖尿病内科	総合内科	整形外科
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状			60床	
2025年			60床	
主な病院機能				
がん	回復期を担う病院。胃がん・大腸がんなど内視鏡的治療、がん検診などの予防医療			
脳卒中	回復期を担う病院。術後の脳リハ・退院後外来での経過観察など			
心血管疾患	急性期・回復期を担う病院。年間100例以上の心臓カテーテル検査・治療 ペースメーカー植込みなど			
糖尿病	回復期を担う病院。外来でのコントロール、教育入院など			
救急	二次救急病院、救急輪番病院			
小児	軽症の外来、各予防接種など。			
周産期	※なし			
災害	※なし			
へき地	※なし			
在宅	在宅療養支援病院・(在宅医療)往診・訪問診療・訪問看護・訪問リハなど			
自施設の現状	開院当初から循環器内科を病院の中心に据えており、心臓カテーテル検査は毎週水曜日に実施、トレッドミル検査、ホルター心電図、心臓超音波検査などは、当日検査可能。また徳島赤十字病院とも長年密接な連携をとっており、重症患者さんの迅速な転院や、術後の患者さんの受け入れを積極的に行い、心リハ指導士を有する理学療法士が専門性の高いリハビリを行い、質の高い循環器診療を入院から外来まで提供しております。			
自施設の課題	当院がまず取り組むことは、医療スタッフ全員のスキル向上です。多数の合併症を持つ高齢者の増加や、医療の高度化によって当院は循環器疾患のみならず様々な疾患に対応しなければなりません。このニーズに答えるため、院内のみならず院外の勉強会や学会の出席を励行し全国標準の医療水準を担保していく予定です。また働き方改革の一環で、タスクシフト・シェアや多様な雇用形態を推進する予定です。			
地域において今後担う役割	当院の目指す先は、「在宅と急性期病院を結ぶ質の高い内科系総合病院」です。今後、当院が担う役割は4点あると考えています。一つ目は、循環器診療の拡大です。循環器診療経験のある医師が増員されるため、増加する心不全患者に対応し今まで以上の専門性を持って対応できると考えています。二つ目は救急医療です。小松島・阿南の救急隊から受け入れ病院の不足を指摘されており、2022年12月22日付けで当院は救急指定病院の認定を受けました。2023年度から若手医師の人数が増員される予定であり、二次救急医療として救急車受け入れ台数を大幅に増やす予定です。三つ目はがん診療です。県南ではがん診療を担う病院がまだ少なく、増加するがん患者に対応しきれないと思います。来年度から腫瘍内科専門医が非常勤で勤務予定であり、外来化学療法から在宅診療まで、がん診療を支えていく予定です。四つ目は感染症です。来年度から日赤とも関係の深い感染症専門医が常勤医になるため、地域の感染対策の中心として活動していく予定です。			
今後の展望	今後しばらく医療需要の大幅な減少はありませんが、将来的には人口減少とともに医療需要の減少が予想されています。「在宅と急性期病院を結ぶ質の高い内科系総合病院」として小松島市だけでなく、徳島市南部(園瀬川以南)も含めた医療圏を中心に、高度急性期病院である日赤病院と共に地域に選ばれるように活動していく所存です。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	小松島金磯病院			
所在地	徳島県小松島市金磯町10番19号			
開設者	医療法人 加藤会 理事長 加藤 好包			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	47床			47床
(うち非稼働病床)	(10床)	()	()	(10床)
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	外科		
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状		15床	18床	4床
2025年		相談に応じます	相談に応じます	相談に応じます
主な病院機能				
がん	末期患者の緩和治療、化学療法間の全身管理			
脳卒中	軽症患者の保存的加療			
心血管疾患	外来管理、心不全増悪時の急性期管理やリハビリテーション			
糖尿病	外来管理や教育入院			
精神疾患	併存疾患の管理が必要なときのみ対応			
救急	救急告示病院として可能な範囲での対応			
小児	外来で一部対応			
周産期	なし			
災害	立地からは地震、津波などの災害時には被災が予想される			
へき地	施設への訪問診療で対応			
在宅	かかりつけの患者で一部対応			
自施設の現状	外来での維持透析管理や透析患者の状態増悪時の対応をしている。 地域の軽症から中等症の急性期患者や社会調整の必要な患者を一般病床と地域包括ケア病床を使用して診ている。			
自施設の課題	老朽化してきた病院(感染管理などに問題あり)の建て替え、スタッフの持続的な確保。			
地域において今後担う役割	理想で言うのであれば、特殊な加療を要しない(地域中核病院で必ずしも対応を要しない)患者や施設で繰り返し状態を悪くしてしまう患者、社会調整が主目的となるような患者、自院の透析患者などの対応を引き続き行い、地域中核病院や他の医療機関と役割分担をしながら地域の医療を守る事が責務だと考えている。			
今後の展望	役割を果たして行きたい意思はあるが、継続出来るか検討を続けている段階。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	医療法人 医正会 原田病院			
所在地	徳島県阿南市富岡町あ石14-1			
開設者	理事長 原田 純			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
		73床		73床
(うち非稼働病床)	()	(13床)	()	(13床)
主な診療科目	1	2	3	4
	整形外科	内科		
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状				73床
2025年				73床
主な病院機能				
機能	慢性期一般を担う病院			
救急	救急告示病院 救急輪番病院			
自施設の現状	2次 3次救急病院からの転医患者をスムーズに受け入れできるよう体制整備を図っている。			
自施設の課題	入院患者を在宅及び施設に返すためのスムーズな連携が必要である。			
地域において今後担う役割	慢性期を軸とした入院機能を中心に地域医療の一端を担えるよう努力する。			
今後の展望	令和3年より介護医療院を開設し、医療療養介護医療院を中心に亜急性期患者、慢性期患者を受け入れ、在宅及び施設のつなぎ役として地域に貢献できるようにする。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	宮本病院			
所在地	阿南市羽ノ浦町古庄古野神4-14			
開設者	宮本英典			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
		48床		48床
(うち非稼働病床)	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	外科	肛門外科	
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状				48床
2025年				48床
主な病院機能				
がん	維持期、慢性期(終末期)を担う病院			
脳卒中	維持期、慢性期(終末期)を担う病院			
心血管疾患	維持期、慢性期(終末期)を担う病院			
精神疾患	認知症等の維持期(終末期)を担う病院			
救急	在宅当番医制病院			
在宅	在宅療養支援病院			
自施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・高度急性期・急性期病院等からの患者受け入れを数多く行い、維持期・終末期医療を提供している。 ・在宅療養中や介護施設入所中の体調を崩した高齢者で急性期病院での治療を望まない患者を必要に応じて受け入れ、終末期医療を行っている。 ・在宅での看取りを希望している場合は訪問看護ステーションと連携しできる限り応じている。 			
自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療や高度医療を担う病院との連携、近隣の診療所や介護施設との連携を行い、地域医療を支える役割を担う。 ・在宅医療にも積極的に取り組む。 ・地元医師会等との連携をより一層強化し、地域の診療所、病院との役割分担を担う。 			
地域において今後担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・高度急性期・急性期病院での治療後、長期間の入院が必要になった患者さんを今後も継続して積極的に受け入れ、後方支援する。 ・介護・福祉施設等とも連携を図る。地域のケアマネージャーさんや訪問看護師さんや社会福祉協議会の職員さんたちとの連絡をこれまでと同じように取りやすいようにしておく。 ・在宅医療にも積極的に取り組む。特に在宅看取りを希望している患者さんには訪問看護ステーションと連携を緊密に行い対応していく。 ・現在行っている発熱外来、新型コロナやインフルエンザ等のワクチン接種、健康診断など地域の幅広いニーズに今後も柔軟に対応する。 			
今後の展望	2025年の南部医療圏の慢性期の必要病床量は民間と公立・公的を合わせても不足している予想なので、当院は療養病床を現状のまま48床で維持する予定。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	玉真病院			
所在地	阿南市宝田町荒井20番地			
開設者	坂本宗彦			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
		42床		42床
(うち非稼働病床)	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
		泌尿器科・内科		
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状				42床
2025年				42床未満
主な病院機能				
人工透析				
糖尿病				
自施設の現状	人工透析を受ける患者が体調を崩したときに必要に応じて入院療養ができる体制を整備している			
自施設の課題	人工透析患者の減少により病床が過剰気味である			
地域において今後担う役割	人工透析患者が体調を崩したときに必要に応じて受け入れができるような体制の整備			
今後の展望	令和7年度以降に病院の建替えを行い、将来的に必要な患者数に合わせて病床数の適正化を図る			

病院の機能・役割と今後について

病院名	ふじの小児科クリニック			
所在地	徳島県小松島市坂野町字平田18-4			
開設者	医療法人 ふじのクリニック			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	3床			3床
(うち非稼働病床)	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	小児科	神経内科	リハビリテーション科	
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状				3床
2025年				3床
主な病院機能	介護医療院16床併設有床診療所			
	小児科かかりつけ診療医		休日夜間当番医	
	機能強化型在宅療養支援診療所			
	発熱外来「診療・検査協力医療機関」		新型コロナ診療サポート医	
自施設の現状	小児科医療全般、感染症、アレルギー疾患と共に発達障害、心身症、神経疾患の診療および、リハビリテーションなどに取り組んできました。地域の実情も鑑み、介護分野にも力を入れ、通所リハ、グループホーム運営とともに在宅診療、地域の方のショートステイ機能もはたしています。19床のうち、療養型病床であった16床は、介護医療院に変更しており、医療必要度が高い場合や若年者の場合は医療病床で診療している。			
自施設の課題	職員の新規採用			
地域において今後担う役割	地域小児科医としてのかかりつけ機能(感染症、ワクチン接種、健診業務、アレルギー診療など) 発達障害診療、リハビリテーション医療 在宅医療 新興再興感染症への対策			
今後の展望	地域の医療機関、介護施設と連携し、地域包括ケアシステムの中で役割を果たしていく。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	藤野医院			
所在地	徳島県小松島市坂野町字平田18番地2			
開設者	医療法人敬和会 理事長 藤野和也			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	7床			7床
(うち非稼働病床)	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	循環器内科	胃腸内科	
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状			7床	
2025年			7床	
主な病院機能	機能強化型在宅療養支援診療所(単独型)			
	休日・夜間当番医			
	介護医療院12床併設			
	発熱外来「診療・検査協力医療機関」			
	新型コロナ診療サポート医			
	認知症サポート医			
自施設の現状	当法人は附帯業務でも訪問看護ステーション、グループホーム、デイサービスセンター、サービス付き高齢者向け住宅、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、一般乗用旅客自動車運送事業等多彩なニーズに対応出来る体制をとっております。			
自施設の課題	看護や介護人員の確保が困難になっている。藤野医院は増築を繰り返したので、今後は改築あるいは新築が必要である。			
地域において今後担う役割	特別養護老人ホーム恵光苑とも連携し、南部圏域の在宅医療・介護を包括的に実施し、地域医療に貢献する。在宅患者や施設入所者の病状悪化時の入院医療に対応する。			
今後の展望	徳島赤十字病院や阿南医療センターとも連携し、急性期後の入院医療や外来および在宅医療を実践する。			

病院の機能・役割と今後について

病院名	医療法人 健泉会 赤岩医院			
所在地	徳島県小松島市立江町字宮前22-1			
開設者	赤岩 務			
許可病床数(床) (うち非稼働病床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	10床			10床
	(10床)	()	()	(10床)
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	外科		
病床機能(床) 現状 2025年	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
主な病院機能				
	病床は休床中			
	外来のみで一次医療			
自施設の現状	主にかかりつけ医院として往診も含め外来でプライマリケアを提供			
自施設の課題	地域の病院や施設との連携をより一層強化し役割分担を担うこと			
地域において今後担う役割	地域に密着した診療所として医療、福祉、介護、予防、生活支援が一体的に提供できる様、二次、三次医療病院、介護福祉施設と連携して在宅支援の強化を図る。また、健康診断や、予防接種等による住民の健康を維持すること			
今後の展望	事業承継の時期が未定のため現在はまだ不透明			

病院の機能・役割と今後について

病院名	岩城クリニック			
所在地	徳島県阿南市			
開設者	兼田 康宏			
許可病床数(床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	19床			19床
(うち非稼働病床)	()	()	()	()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	心療内科	整形外科	
病床機能(床)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
現状			19床	
2025年			19床	
主な病院機能				
がん	回復期を担う			
脳卒中	回復期を担う			
心血管疾患	回復期を担う			
糖尿病	血糖のコントロールや心理教育			
整形外科的疾患	回復期を担う			
精神疾患	療養や環境調整のための一時的な受け入れ			
自施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅療養中の高齢者が体調を崩したときに、必要に応じてスムーズに入院ができるよう体制整備を図っている。 ○総合病院と在宅の架け橋を心がけている。 			
自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療を支える役割を担うとともに、医療・福祉・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの実現に向け体制を強化する。 ○地区医師会等との連携をより一層強化し、地域の病院、診療所との役割分担を担う。 			
地域において今後担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ○医療・福祉・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築に向け、介護・福祉施設等とも連携を図る。 (在宅支援機能の強化など。) 			
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療ニーズの変化に対応する。 			

病院の機能・役割と今後について

病院名	馬原医院			
所在地	徳島県阿南市新野町信里6-1			
開設者	馬原文彦			
許可病床数(床) (うち非稼働病床)	一般	医療療養	介護療養	合計
	19床 ()	()	()	19床 ()
主な診療科目	1	2	3	4
	内科	循環器内科		
病床機能(床) 現状 2025年	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
				19床 19床(うち4床は ゾーニング可能な 軽症者用感染病床)
主な病院機能				
がん	回復期、慢性期			
脳卒中	回復期、慢性期			
心血管疾患	回復期、慢性期			
糖尿病	回復期、慢性期			
精神疾患				
救急				
小児				
周産期				
災害	大規模災害時に病床を災害用病床として支援可能			
へき地				
在宅	在宅療養支援診療所			
自施設の現状	回復期、慢性期患者を受け入れる身近な医療機関として機能している。 慢性期病床ではあるが、地域の患者を病状によりトリアージを行い急性期病院へ紹介搬送できる体制を整備し連携を図っている。			
自施設の課題	身近な医療機関として、ファーストタッチ機能を担う急性期から慢性期まで対応する			
地域において今後担う役割	「時々入院ほぼ在宅」を基本として、在宅療養支援診療所機能を担う。 訪問診療、必要時に訪問看護、訪問ヘルパーと連携して在宅医療を行っていく。 地域包括ケアシステムの役割として、医療・介護・福祉施設等と連携を図る。 当院の地理的条件として、大規模災害時には災害拠点病院と距離があり近隣の医療を担う。 (別紙参考資料)			
今後の展望	2025年に向けて有床診療所を移転新設予定。 熱性疾患用発熱外来、慢性期病床19床のうち4床をゾーニング可能な軽症者用の感染症病床に利用できるよう計画している。			

地政学的环境(大規模災害時)

